

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻 博士後期課程 1 年 安田健二

平成 25 年度（前期）海外渡航旅費助成をいただき、2013 年 7 月 21 日から 27 日にかけてスウェーデンのヨーテボリで開催された International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior(IASPEI)においてポスター発表をしてきました。その成果を報告させていただきます。

ヨーテボリへは直行便がなく、フランクフルトを経由して約 14 時間かかりました。私は IASPEI が開催される前日に現地に着きました。初めての北欧であり、少し不安でしたが、ヨーテボリは街自体がきれいで、夜九時を過ぎても日が沈まないで明るくとても治安が良い街でした。会場は、中央駅からトラムに乗って約 10 分程度の場所に位置しており、交通の便が非常に良い場所でした。

学会では、午前と午後 90 分のオーラルセッションが二回ずつ行われ、水曜と金曜の午後にポスターセッションが行われていました。初日には特別セッションが開催され、東北地方太平洋沖地震の震源域におけるボーリング調査 (JFAST) の結果を Mori 氏が発表しており、日本の研究機関が関わる研究が世界中から注目されていることを改めて感じました。また、John Milne 氏の地震学への貢献を記録したビデオが上映され、日本の地震学に対する貢献などを初めて知ることができました。二日目以降は各セッションに分かれての発表でした。全体を通して感じたことは、ヨーロッパでの学会であったことから発表の内容もヨーロッパにおける地震学の研究が主であり、日本とは違い沈み込み帯の研究よりも造山帯や海嶺におけるプレートの拡大などに関連した研究が多いと感じました。日本ではあまり接することのない発表内容であった為に大変興味深く発表を聞くことができました。特に、二日目に発表があった Gregersen 氏の「Recent and historic stress and strain around the Gothenburg – earthquake of 1759」の発表では、会場周辺での地震が Post Glacial Rebound による応力の変化による地震であったことを指摘しており、このような応力変化によって比較的大きな地震が起きることを興味深く感じました。このほかにも、大西洋の中央海嶺における Full Waveform Inversion の研究に関する発表が行われており、トモグラフィーと組み合わせることで、より詳細な海洋地殻内の構造が明らかになり、研究対象の領域では、浅部に速度異常があることが報告されていました。プレートの拡大軸においては、海底地震観測データを用いた研究が行われており、海嶺近傍で脆いリソスフェアがあり、拡大速度が低

速となることが報告されていました。これらの多くの発表を聞くことにより、とても勉強になりました。

私にとって海外での発表は今回が2回目であり、比較的にリラックスした状態で発表に望むことができました。発表は「Interdisciplinary ocean bottom stations」というセッションにおいて「Interplate locking derived from the seafloor crustal deformation measurement at the northern part of the Suruga Bay, Japan」というタイトルで行いました。私の研究分野である海底地殻変動の研究はヨーロッパではなじみがなく、はじめのうちはあまり興味を示していただけませんでした。ロシアの方と議論をしたことをきっかけに複数の人から興味を持っていただき、議論を深めることができました。AGU fall meeting では、海底地殻変動観測のことを知っている人が多いと感じましたが、今回の学会ではほとんど知っている人がいなく、まだまだ私の分野の研究が広く伝わっていないことを痛感させられました。また、今後も研究に邁進し様々な場所で発表をする機会を作っていきたいと思います。

最後になりましたが、地震学会の海外渡航旅費を助成してくださり、IASPEIに参加させていただく貴重な機会を与えていただきまして、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

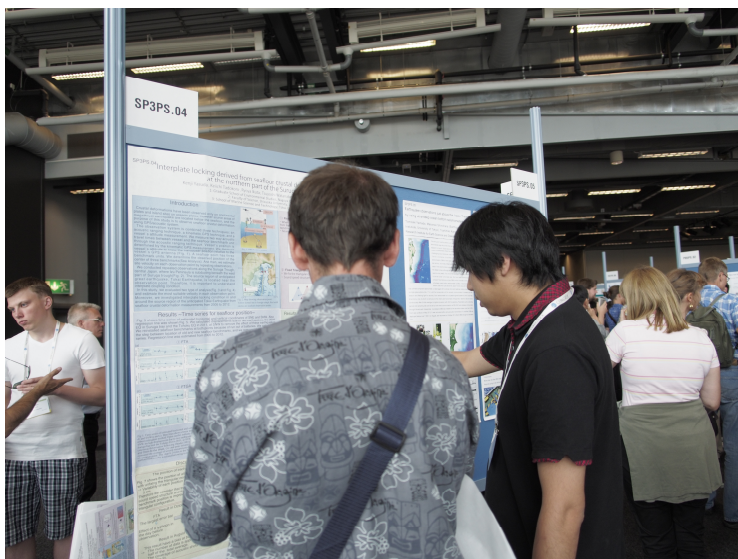


写真 ポスター発表の様子